

2023年3月18日(土)
14:00~16:30
Zoom Webinar

この数年、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻によって、私たちの暮らしは大きな影響を受けてきた。急激な物価上昇のために日々の生活すらままならない人びとも増えている。教育面では、子どもの貧困、教育格差の問題に加え、情報化や教員不足などへの対応を迫られるようになってきた。

次から次へとあらわれる課題への対応に追われ、学校は毎日の業務をこなすのに手いっぱいな状況にある。あちこちから「改革疲れ」という声も聞こえてくる。私たちはいったいどこに向かっていくのだろうか。一度立ち止まって考えることが必要なのではないだろうか。

中部の教育 150年 をふりかえる

2022年は日本で近代学校制度の嚆矢に位置づけられる「学制」が公布されてから150年目の年である。50年前の1972年には学制公布100周年を記念して文部省が『学制百年史』を刊行したのをはじめ、各地で『〇〇県百年史』などの自治体教育史の発刊や記念行事が相次いだ。これに対して今年には文部科学省や地方の博物館などがシンポジウムやさまざまな企画展示を行なったくらいで、とりたてて何かで盛り上がったということはほとんど伝わってこない。だが、過去を忘れるということは未来への指針を見失うことでもある。私たちの社会は過去の歴史のうえに成り立っている。学校を中心とした教育のいとなみも同じである。学制公布150周年を機に、この中部地域で行なわれてきた教育を冷静に振り返り、今後の教育のあり方を考える手がかりを得たい。

森透 (福井大学名誉教授)

大正新教育研究の方法論的検討

民衆史の視点から福井県を事例に考える

清原みさ子 (愛知県立大学名誉教授)

愛知県における幼児教育・保育の歴史

幼稚園の開設(1892年)から「幼稚園教育要領」

(1956年)までの保育の実際を中心に

井上兼一 (皇學館大学)

三重県における新制中学校の整備と

カリキュラム改革

古里貴士 (東海大学)

高度成長期における四日市市の公害と教育(仮)

司会: 足立淳 (朝日大学)

企画: 吉川卓治 (名古屋大学)



参加申込は「中部教育学会」Webページから

<http://chubu-kyoiku-gakkai.org/2022年度共催公開シンポジウム/>

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_vwx854y0SQe_uKOZUqrsGA

問合先 柴田好章 (名古屋大学) shibata@nagoya-u.jp